

穴栗市「森林から創まる生活圏の拠点づくり」

# 千種生活圏の拠点づくりの考え方

平成 31 年 2 月

穴 栗 市

# もくじ

|                     |   |                                     |    |
|---------------------|---|-------------------------------------|----|
| I はじめに              | 2 | IV 生活圏の拠点の役割と機能                     | 11 |
| 1 計画の趣旨と目的          |   | 1 生活圏の拠点づくりに向けた取組                   |    |
| 2 他の計画との関連性         |   | 2 持続可能な地域づくり                        |    |
| 3 計画の策定体制           |   |                                     |    |
| II 千種町域の概要          | 5 | V 拠点施設の機能                           | 14 |
| 1 地域の概要             |   | 1 拠点施設周辺と既存施設の現状                    |    |
| 2 人口動態              |   | 2 拠点施設の機能（集約・複合化）                   |    |
|                     |   | 3 （仮称）千種市民協働センターの整備と<br>エーガイヤちくさの改修 |    |
| III 千種生活圏の将来像       | 7 | 4 拠点施設の活用                           |    |
| 1 生活圏の拠点            |   |                                     |    |
| 2 生活圏の魅力と課題         |   | VI 取組のスケジュール                        | 18 |
| 3 生活圏の拠点づくりに向けた基本方針 |   |                                     |    |

# I はじめに

## 1 計画の趣旨と目的

現在、我が国では東京への一極集中を背景に、地域の人口減少・少子高齢化が深刻な事態を迎えています。そのような中、宍粟市では平成 27 年 12 月に「森林から創まる地域創生」をテーマとして、宍粟市地域創生総合戦略を策定し、さらに昨年 11 月には 3 つのアクションプランを策定して、様々な人口減少対策の具体化を進めています。

その中の一つに「森林から創まる生活圏の拠点づくり」があります。これは町域を一つの“生活圏”と捉え、その中に、生活に必要な様々な機能が集まった“拠点”をつくと共に、公共交通や情報通信などのネットワークを駆使して、将来にわたって地域の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、取組を進めるものです。

この計画は、その更なる具体化に向けた一歩として、千種町域での「生活圏の拠点づくり」に関する具体的な方策を定めることを目的としています。

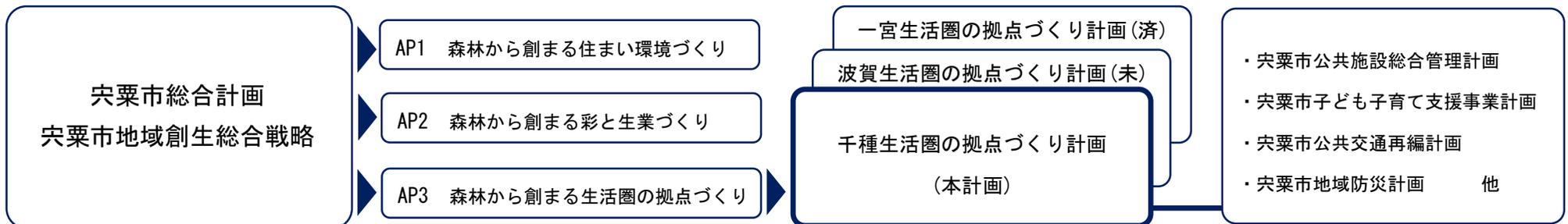
■ 宍粟市生活圏ネットワークのイメージ



出典：宍粟市総合計画

## 2 他の計画との関連性

この計画と他の宍粟市の各種計画の関連性は下図のとおりです。特に他の 2 つの「宍粟市地域創生総合戦略アクションプラン」や「宍粟市公共施設総合管理計画」との整合を図りながら取組を進めます。一宮町域ではすでに計画を策定しており、本計画の策定後、波賀町域でも同様の計画を策定します。



■ 関連する計画等

| 名称                       | 期間     | 目的/概要   |
|--------------------------|--------|---|
| 宍粟市総合計画                  | H28-37 | 宍粟市の最上位計画として、市政全般にわたる施策を体系的・網羅的に整理。現行の第2次総合計画では特に、人口減少対策を最重要課題として位置づけると共に、将来の地域構造として生活圈ネットワークの構築を明記。          |
| 宍粟市地域創生総合戦略              | H27-31 | 「森林から創まる地域創生」をテーマに掲げ、人口減少対策の取組を【住む】【働く】【生み育てる】【まちの魅力】の4つの観点から整理。選択と集中により取組の更なる重点化と加速化を図るため、以下の3つのアクションプランを策定。 |
| AP1 森林から創まる<br>住まい環境づくり  | H29-31 | 人口流出の抑制に向けたダム機能の強化を念頭に、若者。子育て世代にとって魅力ある住環境・子育て環境の整備を促進する。   |
| AP2 森林から創まる<br>彩と生業づくり   | H29-31 | 地域の特性に合った農林漁業や商工業の営み(生業)によって、地域の風景(彩)の価値を高め、それらが地域の中で新たな生業に繋がってゆく好循環を生み出し、“日本一の風景街道”を創造する。                    |
| AP3 森林から創まる<br>生活圏の拠点づくり | H29-31 | 将来的な人口減少が見込まれる中であっても、地域の中で生活の利便性や賑わいを確保し、さらには地域活力の向上を図ることを目的として、“生活圈の拠点づくり”を行う。この計画の根幹を成す考え方。                 |
| 宍粟市公共施設等総合管理計画           | H28-37 | 将来に向けて安定した行政サービスを提供するための、市役所や市民局、生涯学習センターなどの公共施設等の整備に関する基本方針。公共施設の管理目標として平成37年までの9年間で公共施設の延べ床面積9%削減を設定。       |
| 宍粟市子ども子育て支援事業計画          | H27-31 | 「子ども・子育て支援法」に基づき、一人ひとりの子どもが健やかに育ち、社会の一員として成長することの出来る環境を整備する。  |
| 宍粟市地域福祉計画                | H27-31 | 障がいの有無や年齢、性別などにかかわらず、誰もが住み慣れた地域の中で心豊かに安心して暮らせる仕組みをつくり、持続させていくための計画。   |
| 宍粟市公共交通再編計画              | H27-   | 地域の誰もがいつまでも安心して暮らしていただけること、高齢者や通勤通学者の移動手段の確保、さらには観光面での利用等を目的とした公共交通の再編計画。                                     |
| 宍粟市地域防災計画                | H24-   | 宍粟市域の災害対策全般に関し、迅速な災害応急対応を図り、住民の生命、身体及び財産を災害から保護するとともに、住民が安心して暮らせる災害に強いまちづくりに資する。                              |

### 3 計画の策定体制

この計画の策定に際しては地域の代表や施設利用者、子育て世代の代表や高校 PTA、地元商店街の代表者など、多様な主体の参画を得て「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」（以下、「委員会」といいます。）を設置し、計 11 回にわたって活発な議論を重ねて頂きました。また、この間に拠点づくりに関連する取組への視察を行い、拠点の形成や施設の運用に関する貴重な示唆を得ることが出来ました。今後、拠点施設を具体化していくにあたっては、本委員会の委員には引き続きご助言いただく予定です。なお、委員会の議事及び視察研修の記録については、別冊の資料編をご確認ください。

#### ■ 千種生活圏の拠点づくり委員会 開催概要

| 会 議                    | 開 催 日               | 協 議 内 容   |
|------------------------|---------------------|---|
| 第 1 回 検討委員会            | 平成 29 年<br>8 月 8 日  | 委員会の目的、地域の人口動態、地域創生総合戦略と生活圏ネットワーク構想について<br>(参考) 国土交通省「小さな拠点づくり」、一宮生活圏の拠点づくり計画について |
| 第 2 回 検討委員会            | 9 月 6 日             | 他地域での取組事例、委員会のスケジュールについて  |
| 第 3 回 検討委員会            | 10 月 3 日            | 委員会意見の整理、勉強会（宍粟市地区コミュニティ支援員：田住 学さん）、ワークシートの作成                                     |
| 第 4 回 検討委員会            | 11 月 7 日            | ワークシートの整理、勉強会（宍粟市社会福祉協議会：森井 裕矢さん）<br>ワークショップ（生活圏の拠点に必要なもの）の実施                     |
| 第 5 回 検討委員会            | 12 月 5 日            | ワークショップ（千種生活圏の拠点エリアの姿）の実施、先進地視察について   |
| 第 6 回 検討委員会<br>(先進地視察) | 平成 30 年<br>1 月 15 日 | 鳥取県西伯郡南部町の「生涯活躍のまち構想」の実現に向けた取組と周辺整備の状況を見学<br>島根県松江市八雲地域の「八雲社会福祉センター・アルバホール」の施設見学  |
| 第 7 回 検討委員会            | 2 月 15 日            | 千種高校生徒からの意見と視察内容の報告、本計画の中間とりまとめ案について  |
| 第 8 回 検討委員会            | 3 月 14 日            | エーガイヤちくさの施設見学、中間とりまとめ案に関する意見整理、策定スケジュールについて                                       |
| 第 9 回 検討委員会            | 4 月 11 日            | 本計画素案の整理、拠点施設の機能に関するグループ討議  |
| 第 10 回 検討委員会           | 5 月 9 日             | 拠点施設の役割と機能に関する考え方について、本計画素案について   |
| 第 11 回 検討委員会           | 6 月 6 日             | これまでの議論を踏まえた千種生活圏の拠点づくり計画策定に向けたまとめ  |

## Ⅱ 千種町域の概要

### 1 地域の概要

千種町域は宍粟市の北西部に位置し、佐用町・岡山県・鳥取県に隣接しています。面積は町域では最も小さく 104.57k㎡で、人口は平成 17 年の合併時点で 4,023 人でしたが、市の南部にある山崎町域や市外への転出が多く、平成 30 年 3 月末時点では 2,914 人まで減少しています。高齢化率も 40%を超えており、市内でも人口減少と高齢化が顕著な地域となっています。

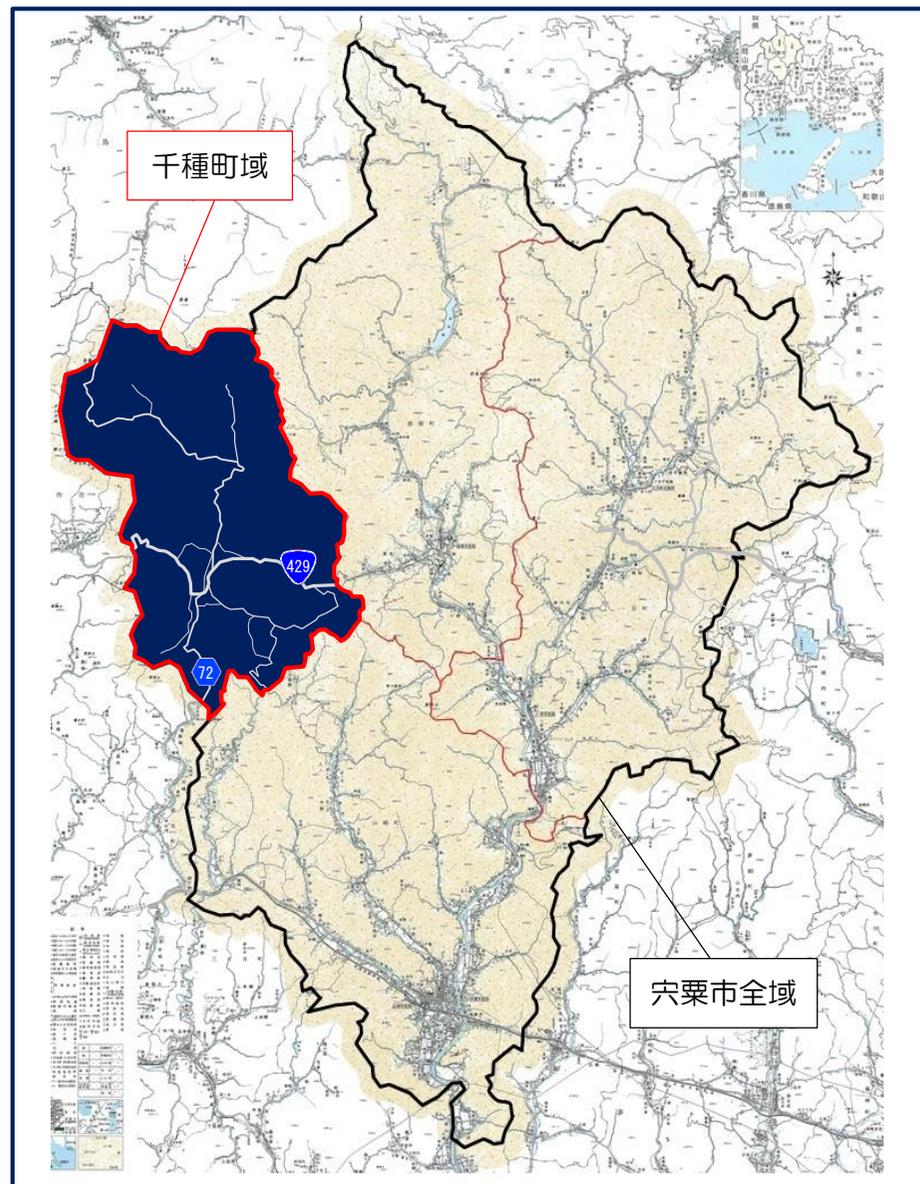
千種町域は、もともと旧千種村発足後、一村から町政へ移行した町域のため、合併して宍粟市となってからも町域内での結びつきが強い地域で、認定こども園から高校までの教育連携体制など特色としても表れています。

町域の中心には商店街があり、買い物など日常生活に必要な機能が一定の範囲にまとまって存在しています。一方で、大型ショッピングセンターや量販店がなく、娯楽施設も少ないことから、若者や学生は休日には町域外まで出て行くことも少なくありません。

また、町域には豊かな自然や観光施設など様々な地域資源があります。なかでも日本の名水 100 選に選ばれた清流千種川や、たたら製鉄の伝統を今に伝える天兒屋鉄山跡は、県内にも類を見ない貴重な地域資源です。また、スキー場やゴルフ場などのレジャー施設が立地していることも、地域の大きな特色といえます。

加えて温泉施設やレストラン機能を備えた保健福祉センター(エーガイヤちくさ)、市内で最初に整備された認定こども園、近年オープンした温水プール、ミニ図書館など施設の充実が見られます。

■千種町域の位置図



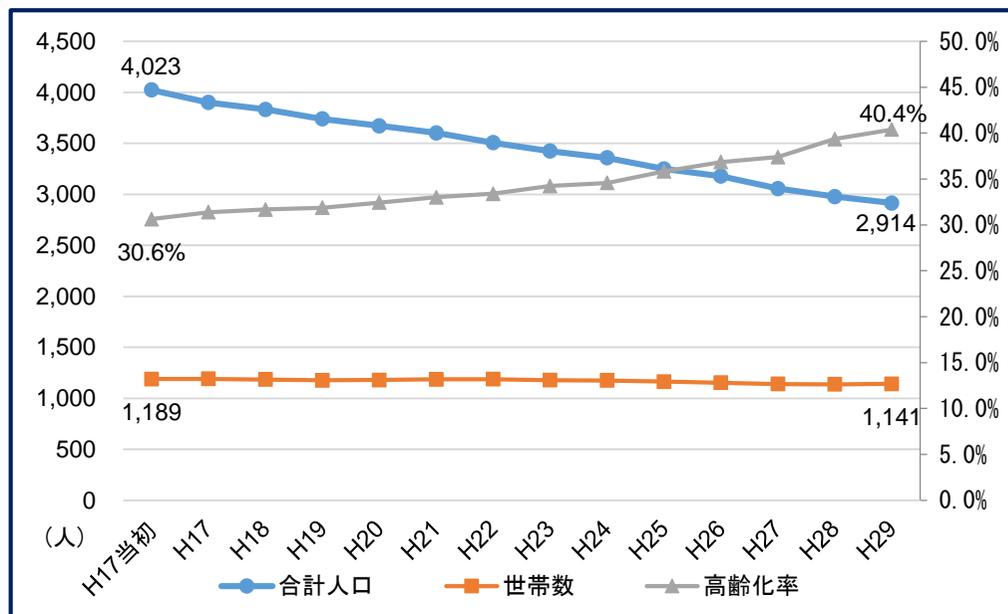
## 2 人口動態

千種町域の人口は昭和 25 年頃から減少傾向にあり、最近のデータでは、平成 17 年 4 月の新市発足当初に 4,023 人であった住民基本台帳による人口は、平成 29 年度末には 2,914 人まで減少しており、この 12 年間で約 28%のマイナスとなっています。

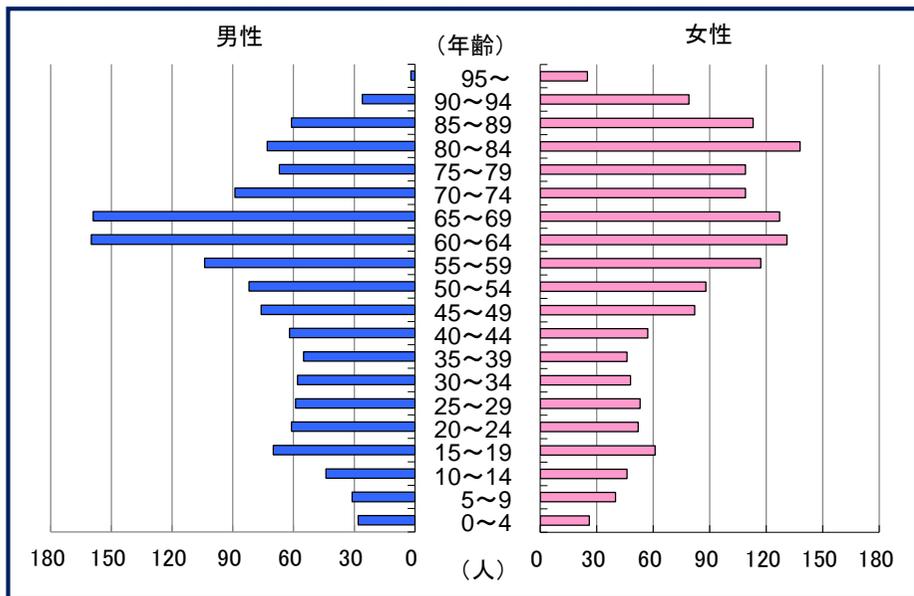
また、若者世代の転出が多く、40 代以上に比べ 30 代までの人口が少なくなっていることから子どもの数が減少しています。また、65 歳以上の高齢者の割合は、平成 17 年当初から約 10%上昇し、40%を超えており、少子高齢化が進行しています。【図表 1、2】

年度毎の動態としては自然動態、社会動態ともにマイナスが続いており、平均して毎年 90 人程度人口が減少しています。社会減の影響もありますが、若者が減少している影響から出生数が少なく、高齢化の影響もあり自然減の影響も大きくなっています。【図表 3】

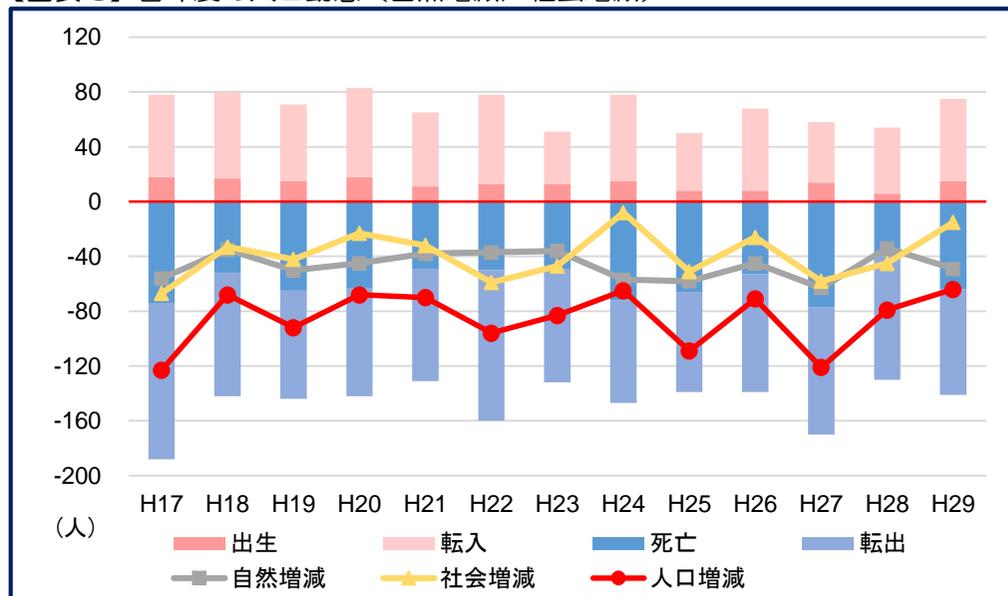
【図表 1】千種町域の人口／世帯数／高齢化率の推移



【図表 2】町域の年代別人口構成（平成 29 年度末時点）



【図表 3】各年度の人口動態（自然増減／社会増減）



### Ⅲ 千種生活圏の将来像

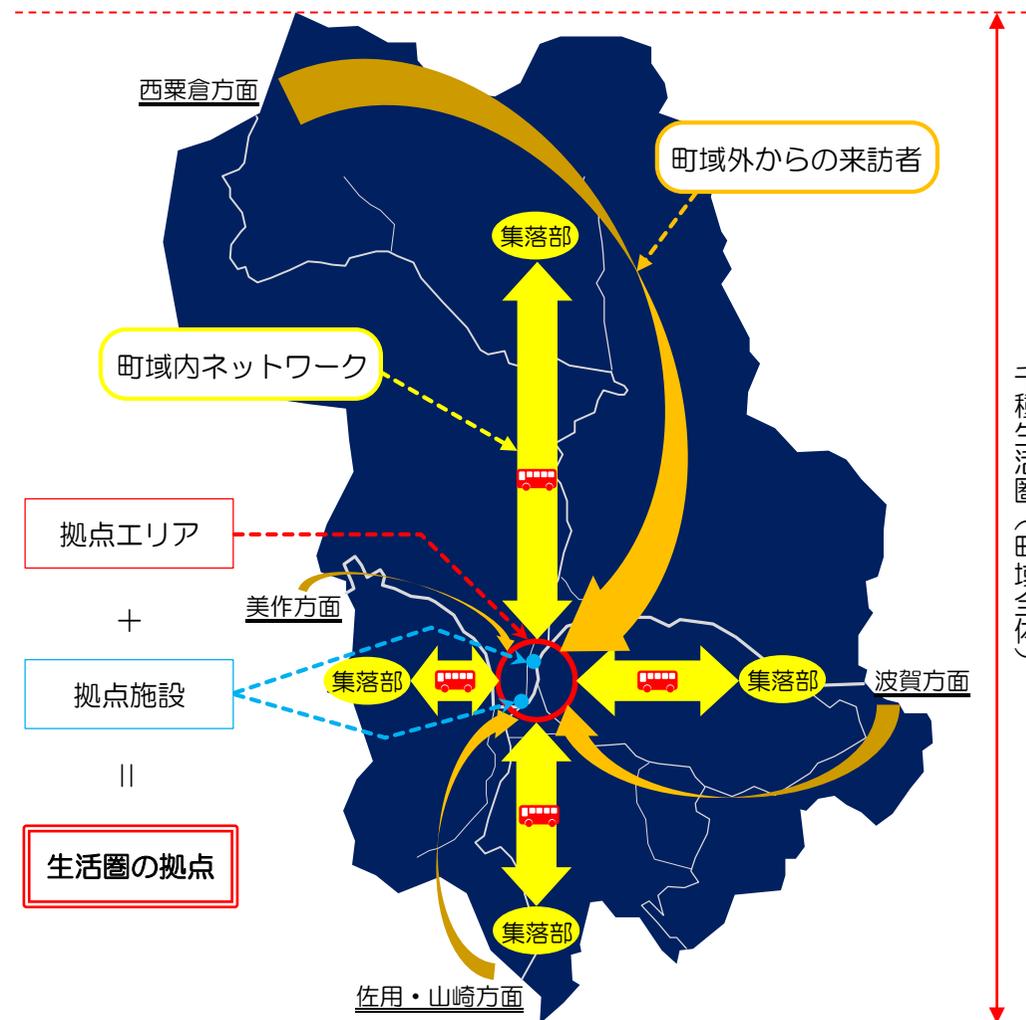
#### 1 生活圏の拠点

「宍粟市総合計画/宍粟市地域創生総合戦略」では町域を一つの生活圏と捉え、市民局周辺を小売店舗や金融機関、医療機関、公共施設など日常生活に必要な機能を備えた「生活圏の拠点」として維持するとともに、「集落部」と「生活圏の拠点」を結ぶ公共交通、物流、情報のネットワーク化により、コンパクトなエリア内で日常生活に必要な機能が確保できる生活圏ネットワークの形成をめざすこととしています。

この考え方にに基づき、「千種生活圏の拠点づくり」では、千種町域全体を「千種生活圏」と捉えるとともに、日常生活に必要な機能が一定の範囲に集積している千種市民局周辺を「拠点エリア」として位置づけます。また、老朽化が進む市民局を新たに再整備する右図の（仮称）千種市民協働センターやすでに保健福祉の拠点として機能しているエーガイヤちくさを拠点の核となる施設として機能させることで、拠点エリアにおける賑わいの確保・創出と市民の利便性向上を図り、町域内外より人が集う「生活圏の拠点」を形成します。

#### ■ 地域を構成する用語の整理

- ①千種生活圏 = 千種町域全体
- ②拠点エリア = 千種市民局周辺を中心とする概ね 1km の範囲
- ③拠点施設 = 拠点エリアの中核となる施設
- ④生活圏の拠点 = 上記の②と③を合わせた機能
- ⑤集落部 = 拠点エリアの外にある居住地域



## 2 生活圏の魅力と課題

地域の「強み」を活かし、地域の「弱み」を克服していくことが地域に暮らす様々な世代の住民が安心して住み続けられる地域づくりに繋がります。「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」におけるこれまでの議論や地元の千種高校生徒との意見交換を踏まえ、地域の「魅力（強み）」と「課題（弱み）」として、次のような点が見えてきました。

### ■千種生活圏の魅力（強み）

| 委員会での意見   | 魅力（強み）                  |
|---|-------------------------|
| <p>○人柄があたたかく、年長者を敬う風土がある。 ○会議や研修会等の参加率が高い。</p> <p>○自分のことより人のことを心配できる田舎の人の人柄の良さがある。</p>                          | <p>① 温かい人柄・地域コミュニティ</p> |
| <p>○ゴルフやスキー場などのレジャー施設や屋内運動場を備えた温泉施設を有する。</p> <p>○新しく温水プールや図書館が整備されている。 ○商店街があるため、生活がしやすい。</p>                   | <p>② 特色があり、充実した既存施設</p> |
| <p>○日本最大級のクリンソウの群生地がある。 ○秋から冬にかけての星空が素晴らしい。</p> <p>○「日本の名水 100 選」認定の清流千種川があり、ちくさ高原の湧水もすごく美味しい。</p>              | <p>③ 豊かな自然環境・観光資源</p>   |
| <p>○先人の知恵や技術が素晴らしい。 ○木工品・竹細工・わら細工等の手仕事が身についている。</p> <p>○歴史的な価値がある「たたら製鉄」の文化が受け継がれている。</p>                       | <p>④ 地域に根付いた伝統文化</p>    |
| <p>○県境の立地条件により岡山県や鳥取県との移動がしやすい。</p> <p>○田舎らしく住居が広くのびのびできる。 ○地域が安心で安全なところが良いところ。</p>                             | <p>⑤ 地理的・地形的特性</p>      |
| <p>○子育て支援に携わる方々の対応や活動が素晴らしい。○地域全体で子育てをサポートする体制がある。</p> <p>○自然の中で成長していくからこそその体験・経験がある。 ○親同士のコミュニケーションがとりやすい。</p> | <p>⑥ 良好な子育て環境</p>       |
| <p>○田舎ではあるけれども教育には力を入れている。 ○園小中高一貫教育で、進学への不安が少ない。</p> <p>○少人数クラスで学校の先生が子ども達をよく見ていてくれるのが良くわかる。 ○授業に地域の特色がある。</p> | <p>⑦ 魅力ある教育環境</p>       |

■千種生活圏の課題（弱み）

| 委員会での意見   | 課題（弱み）                   |
|---|--------------------------|
| <p>○路線バスは安価だが、便数が限られており利便性が悪い。 ○都市部への移動に時間を要する。<br/>○大雪時の交通が不安。 ○通過交通が少なく、千種が目的地にならなければ観光客など入ってこない。</p> | <p>① 交通の不便</p>           |
| <p>○大型スーパーや量販店まで距離がある。 ○人口減少に伴い、既存小売店舗の撤退や縮小が懸念される。<br/>○地元の商店街のイメージが暗い。もっと明るいイメージにすれば利用する人も増えるのでは。</p> | <p>② 買い物の不便</p>          |
| <p>○高齢になり車の運転が出来なくなったときのことを考えると非常に心配。<br/>○将来的にかなり高齢化が進んでいく。 ○公共料金が高いということは、将来に向けて不安材料。</p>             | <p>③ 高齢者の生活不安</p>        |
| <p>○若者の働く場所が限られている。 ○高校等を卒業後に市外に出ていく傾向がある。<br/>○交通の便が悪いため、ベッドタウンにもなりにくい。 ○少子化により中・高校で部活動が出来ない。</p>      | <p>④ 若者の地域離れ(働く場の不足)</p> |
| <p>○周りが親戚や友人ばかりで自由に意見が言えない。 ○出役や行事の負担感が大きい。<br/>○地域の将来について諦めていて夢を持っていない。 ○地域コミュニティへの関心が薄れてきている。</p>     | <p>⑤ コミュニティのマイナスイメージ</p> |
| <p>○診療所は待たずに診察してもらえるが、診療科が少ない。 ○診察時間（開いている時間）が短い。<br/>○子どもが急病のとき、夜間救急へ行くにも距離が遠く時間がかかるので不安がある。</p>       | <p>⑥ 地域医療の不足</p>         |
| <p>○選べる習い事が少なく、子どもの友達関係も広がりが無い。 ○将来的に高校の存続が危ぶまれる。<br/>○公園が少なく、子どもを安心して遊ばせる場所がない。</p>                    | <p>⑦ 子育て・教育の選択肢の少なさ</p>  |
| <p>○人口が減少し、空き家がどんどん増えている。 ○放置すれば倒壊する危険な家屋が増えてきた。<br/>○商店街にも空き家が目立つようになった。景観を損ねる。</p>                    | <p>⑧ 空き家の増加</p>          |

※その他にも千種生活圏の魅力（強み）や課題（弱み）について意見がでていますが、生活圏の拠点づくりにおいて主だった意見から整理しました。

### 3 生活圏の拠点づくりに向けた基本方針

生活圏の強みや弱みを踏まえ、拠点の中で日常生活に必要な機能を維持していくとともに、拠点と集落とのネットワーク化を図り持続可能な生活圏を形成していくため、次の方針に基づき拠点づくりに向けた取組を進めます。

#### (1) 世代間・地域間の交流促進

子育て世代や高齢者、若者や高校生など、それぞれの世代が気軽に集い交流できる空間づくりや、地域の活動団体や団体同士が集まり、地域づくりについて話し合える場づくり。

#### (2) 生涯学習や文化・芸術活動の推進

高齢者の学びの場や若者のサークル活動の場など、生活圏（集落・地元）で楽しみや生きがいを育み、その活動が拠点においてさらに広がる環境づくり。

#### (3) 地域経済活性化と買い物の場の維持・確保

持続可能な地域社会の実現に向けて、将来の不安要因である買い物の場を維持・確保していくため、地元商店の利用促進や新たな需要の喚起など地域経済を活性化し、地域の中で経済が循環する仕組みづくり。

#### (4) 地域の魅力向上や情報の発信

地域内での交流促進と観光客誘致による交流人口の増加により、拠点での更なる賑わいを創出するため、今ある地域資源の有効活用や効果的なPRなど地域の魅力づくりや情報発信の充実。

#### (5) 安全安心の拠点

災害に強い拠点として、防災情報発信の基地や避難所としての機能を高めるとともに、災害時には復旧・復興の拠点として機能する施設整備や体制づくり。

## Ⅳ 生活圏の拠点の役割と機能

### 1 生活圏の拠点づくりに向けた取組

拠点づくりに向けた基本方針に基づき、拠点に求められる役割や機能を整理し、その実現に向けて次の取組を進めます。

#### (1) 世代間・地域間の交流促進に向けて

| 役割／機能       | 内 容  | 実現に向けて  |
|-------------|--|---|
| 賑わいの場や憩いの空間 | 地域内の個人や様々な団体の活動の場や情報共有の場づくりと学校や仕事帰り、また休日にふと立ち寄りたくなる憩いの空間づくり。                         | 拠点施設を利用した個人や団体など交流を促進する事業の実施や、拠点施設内での憩いの空間づくりを行う。   |
| 地域支えあいの体制   | 高齢化率が高い千種町において、住み慣れた地域に住み続けるために集落内や集落間、拠点との連携体制づくりなど、行政や福祉サービスが届かないところでの助けあいの仕組みづくり。 | 地域包括ケアシステムによる地域支えあいの体制づくりを進めるとともに、高齢者等への相談体制の充実を図る。 |
| 地域人材の活躍     | 千種町に受け継がれる伝統や文化、手仕事のほか、教育・学習や社会活動など、地域の子どもや地域に住む人への学びの機会の提供。                         | 拠点施設や学校園などで知識や技術をもつ地域の方が活躍できる場を提供していく。              |

#### (2) 生涯学習や文化・芸術活動の推進に向けて

| 役割／機能           | 内 容   | 実現に向けて  |
|-----------------|---|---|
| 地域での生きがいや楽しみづくり | 生涯学習や文化・芸術活動を通じたコミュニティの活発化と、高齢者や若者の趣味やサークルなど地域に住む人の生きがいや楽しみづくり。 | 生涯学習や文化・芸術活動でより利用しやすい拠点施設を整備するとともに、学習や活動内容について情報発信し、活動の輪を広げていく。 |
| 魅力のあるプログラムの実施   | 生涯学習や文化・芸術活動を推進する魅力のあるプログラムや地域外からも人が集まるような仕掛け。                  | 既存施設の有効活用や拠点施設の設備を利用した魅力ある生涯学習講座や音楽イベントの実施など生涯学習や文化・芸術活動の充実を図る。 |

(3) 地域経済活性化と買い物の場の維持・確保に向けて

| 役割／機能         | 内 容   | 実現に向けて  |
|---------------|---|---|
| 日常生活に必要な機能の維持 | 拠点施設における賑わいの場づくりとあわせ、商店街に人が流れる仕組みづくりなどによる日常的な買い物の場や民間サービスを維持・確保と地域に愛される商店街としての再生と活性化。 | 若者や子育て世代の意見を取り入れ、商店街の利用客層の拡大を図るとともに、拠点施設の学生利用等の促進にあわせて商店街への人の流れを創出する。 |
| 住民の利便性の向上     | サービスのワンストップ化やサービスの提供者時間帯の改善による拠点への集客など、住民が利用しやすい仕組みづくり。                               | 行政機能の集約・複合化や民間サービスの拠点施設への導入により利便性の向上を図る。                              |
| 交通環境の改善       | 拠点エリアと集落を結ぶ公共交通の維持とともに、地域内での支えあいにより集落部と拠点とを結ぶ移動手段の確保と県境の立地を活かすための道路環境の改善。             | 集落や集落間での連携を強化し、助け合いによる移動手段やサービスの提供を目指す。また、国・県道の道路改良を求めていく。            |

(4) 地域の魅力向上や情報の発信に向けて

| 役割／機能          | 内 容  | 実現に向けて  |
|----------------|--|---|
| 充実した子育て環境      | エーガイやちくさの子育て支援機能の維持や子育て世代が子連れで遊べる場所や気軽に休憩できる場所、学びの場の確保。                          | 年齢に応じた遊びと学びの機会を提供していくことや、子育て世代と他世代との交流を創出する憩いの場づくりや事業の実施を推進する。        |
| 魅力ある教育環境       | 園小中高連携の強化や学校園と地域との連携・協力体制の強化、魅力的なカリキュラムづくりを応援できる体制づくり。また、子どもたちが充実した学校生活を送るための支援。 | 学校と地域との連携・協力体制をさらに強化し、地域全体で応援する体制を整える。また、授業以外に子どもたちが打ち込めることへの機会を創出する。 |
| 地域情報の発信と観光客の誘客 | 地域の行事やイベントなどの効果的な情報発信や、観光客が拠点に立ち寄る仕組みづくり。  | 各種団体等からの情報を集約・発信するとともに、観光案内を充実し、観光客の利用を促進する。                          |

(5) 安全安心の拠点

| 役割／機能 | 内 容   | 実現に向けて                                |
|-------|---|---------------------------------------|
| 避難所機能 | 平常時での防災に関する啓発と災害時における情報発信機能や避難所機能の確保。避難しやすい環境づくり。 | 拠点施設の地域の防災訓練での活用や、施設周辺の避難経路の安全性を確保する。 |

## 2 持続可能な地域づくり

千種市民局とエーガイヤちくさという2か所の核となる施設とその周辺を拠点として、拠点づくりに向けた取組を進めることで、今ある資源を有効に活用しながら「地域づくり」「人づくり」「健康づくり」など千種町の将来につながる拠点を形成します。また、「**集う**」ということをテーマに、今ある特色を強みに変えながら、拠点に賑わいを創出し、商店街が線となって拠点を結ぶことで、将来にわたって持続可能な地域づくりを進めます。

### <拠点づくりに向けた取組>

- 世代間・地域間の交流促進
- 生涯学習や文化・芸術活動の推進
- 買い物の場などの維持・確保
- 地域の魅力向上や情報の発信
- 安全安心の拠点

**特色を強みに 賑わいを創出**  
**商店街が拠点を結ぶ線に**

**元気にみんなが**  
**「集まる」**  
**地域の拠点に**

### 地域づくり

【賑わい/交流/地域活動】

現市民局周辺/生涯学習/  
ええとこセンター 等

### 人づくり

【文化/教育/スポーツ】

千種小学校/図書館/  
プール/こども園 等

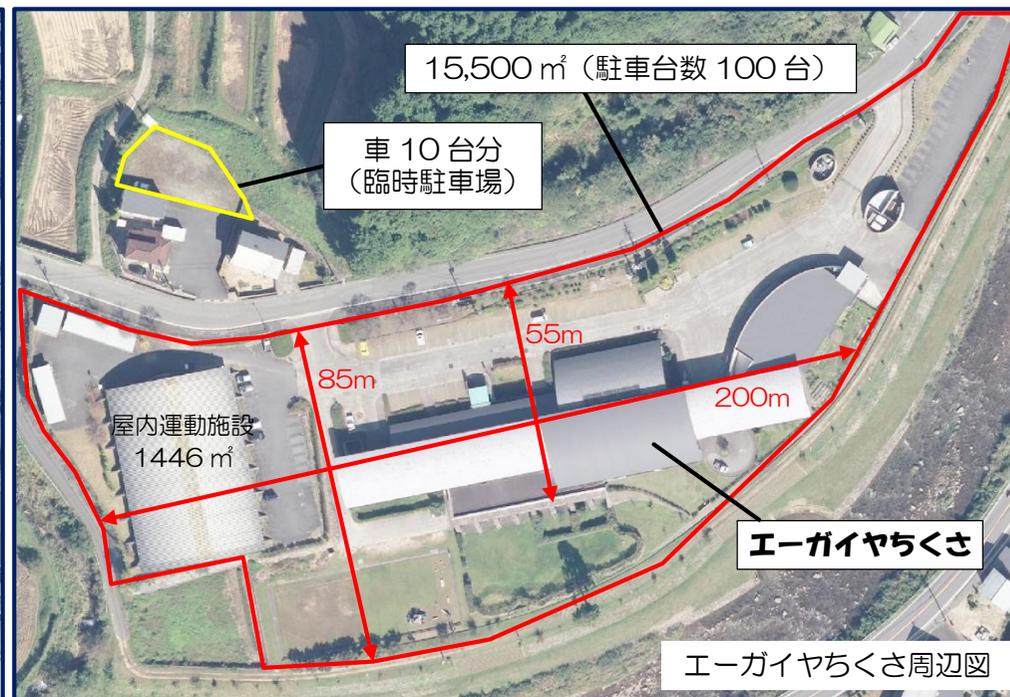
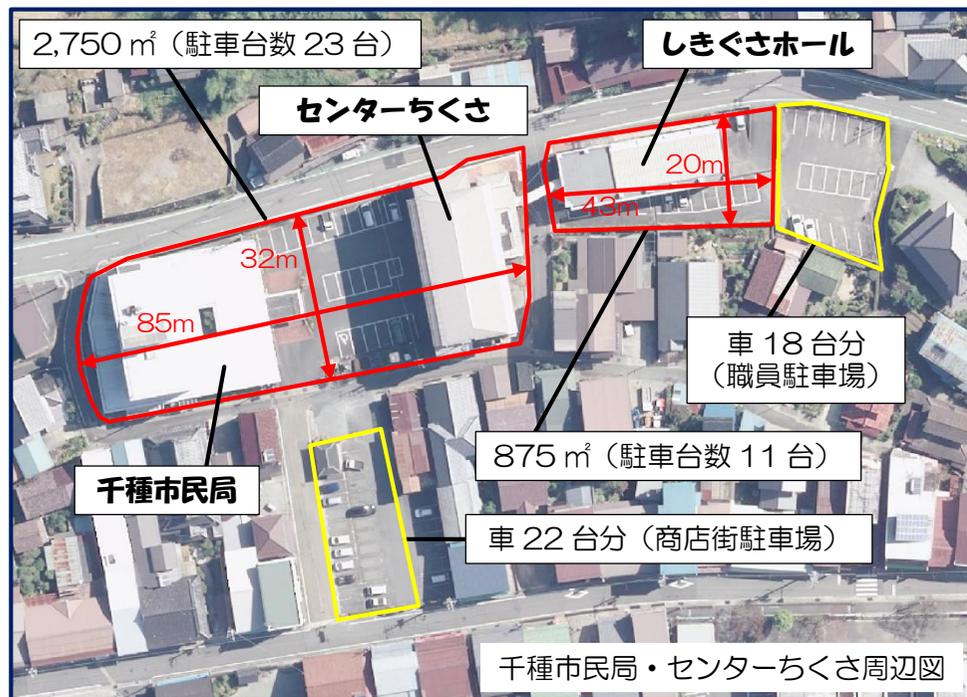
### 健康づくり

【健康/安心/支えあい】

エーガイヤ周辺/診療所/  
保健福祉・子育て支援/  
社会福祉協議会/  
ふれあいサロン/  
観光・休憩 等

## V 拠点施設の機能

### 1 拠点施設周辺と既存施設の現状



#### <既存施設の現状>

| 施設名      | 建築年度          | 構造・階層           | 延床面積                   | 主な用途  |
|----------|---------------|-----------------|------------------------|---|
| 千種市民局    | S43           | RC造3階建          | 1471.85 m <sup>2</sup> | 市民局事務所、会議、宿日直、備品・書類保管、宿日直、サーバー機器等保管 等                               |
| センターちくさ  | S50           | RC造4階建          | 1476.20 m <sup>2</sup> | 生涯学習事務所、コース、体操・ダンス、集会・会議、生涯学習事業 等                                   |
| しきぐさホール  | S57           | RC造2階建          | 306.32 m <sup>2</sup>  | ※現在利用なし(1階部分の一部を駐車場利用)  |
| エーガイヤちくさ | H13・<br>14・16 | RC造1階建<br>※地下1階 | 4503.75 m <sup>2</sup> | 保健福祉・社協事務所、子育て広場、デイサービス、通所リハビリテーション、<br>ふれあいサロン(温泉・食事・フィットネス)、診療所 等 |

## 2 拠点施設の機能（集約・複合化）

拠点施設の整備については、機能は現状のまま老朽化が進む千種市民局とセンターちくさを統合する方法や、千種市民局もしくはエーガイヤちくさの一ヶ所に機能をすべて集約する方法など、委員会の中でも様々な意見がありましたが、現在の施設の利用状況や将来的な利用の仕方を考える中で、千種市民局とセンターちくさを集約・複合化した（仮称）千種市民協働センターを整備し、商店街とも連携していくことで拠点での賑わい創出を図ります。

### ■拠点施設の役割と機能の整理

<現状>

| 千種市民局の機能  |
|---|
| 住民窓口（戸籍・税・医療・年金等の窓口）<br>地域づくり（自治会、消防、防災等）<br>産業・社会資本（産業、建設、水道等） |

| センターちくさの機能                           |
|--------------------------------------|
| 生涯学習事務所、生涯学習、サークル活動<br>文化ホール、集会所、避難所 |

| エーガイヤちくさ  |
|---|
| 保健福祉センター、医療機関<br>子育て支援センター、福祉避難所<br>社会福祉活動の拠点、公共交通の拠点 |

<整備後>

| （仮称）千種市民協働センター  | （拠点施設の活用イメージ）   |
|---|---|
| 住民窓口（戸籍・税・医療・年金等の窓口）<br>地域づくり（自治会、消防、防災等）<br>産業・社会資本（産業、建設、水道等）<br>生涯学習、サークル活動<br>文化ホール、集会所、避難所<br>憩い・交流、休憩・喫茶<br>その他拠点施設として必要な機能 | 千種市民局とセンターちくさの機能を集約した（仮称）千種市民協働センターを整備し、個人・各種団体の活動拠点として、連携や情報共有できる場として活用。また、若者や学生の学びや交流の場、高齢者の生きがいや生涯学習の場として活用。 |

| エーガイヤちくさ  | （拠点施設の活用イメージ）  |
|---|--|
| 保健福祉センター、医療機関<br>子育て支援センター、福祉避難所<br>社会福祉活動の拠点、公共交通の拠点 | 施設のもつ既存機能の充実を図るとともに、拠点エリアにおいて町域外からの来訪者にもわかりやすい立地特性を活かし、観光案内などの中継拠点として観光面での役割も検討。 |

### 3 (仮称)千種市民協働センターの整備

拠点施設が備える機能と拠点づくりに向けた取組を踏まえ、(仮称)千種市民協働センターの整備について、次のことを想定し、計画を進めます。

#### ■ (仮称)千種市民協働センターの整備

- **建設場所**：現千種市民局・センターちくさの敷地とその隣接敷地内とし、あわせて屋外倉庫や公用車棟を整備する。
- **建設内容**：施設の規模、階層および構造については建設に係る基本計画において検討する。ただし、諸室や設備については必要性を勘案し、設置する。なお、地元消防団の詰め所や車庫については、別用地での建設も含めて施設の規模等とあわせて検討を行う。また、拠点施設に関する委員会での意見や提案についても検討を行う。
- **解体施設**：現千種市民局、センターちくさおよびしきぐさホールは解体する。
- **アクセス**：周辺道路の改良の検討も含めて施設の敷地に進入しやすい動線を確保するとともに、路線バス利用者の施設内への出入にも配慮する。
- **その他**：拠点づくりの基本方針や拠点づくりに向けた取組を推進する施設とする。  
断熱性や気密性の高い省エネ性能に優れた施設とするとともに整備費用や維持管理費用の低減を図る。  
再生可能エネルギーを電気や熱源として積極的に活用する。  
森林のまちとして、積極的に地域の木材を使用したシンボリックな施設とする。

## 4 拠点施設の活用

千種生活圏の拠点づくりを通じて、みんなで支えあい、地域で助けあっていける温かいまちづくり、いつまでも千種町に住み続けることができる環境や体制づくりにつなげていきたいと考えています。そのためには、世代や地域を超えて交流を促進し、地元商店街の利用につなげていくことや、個人や団体がお互いに連携して新たな取組が生まれてくる、そんな拠点が必要ではないかと思えます。

これまで計 11 回の委員会で数多くの意見をいただきました。みんなが集まり、みんなが必要とする拠点施設としていくために、これからも多くの方の意見をお聞きしながら、その思いを込めた拠点施設の具体化と活用に向けた取組を進めていきます。

### ■拠点施設に関する委員会での意見

- 若者が集まれる場所、学生が勉強できる場所や多くの人が集まれるホールは必要だと思う。
- 生きがいにつながる文化的な取り組みが継続できるような施設にしてほしい。
- 皆が楽しく交流できる場として、音楽や芸能大会などができるホール機能が充実すれば。
- 開かれた空間の中で世代間の交流が生まれるような場所になれば良い。
- コンビニのように 24 時間開いている地域の拠り所になるような拠点であってほしい。
- 民間にスペースを貸し出すなど、維持管理費を捻出できる収入源をもった施設に。
- 日常生活のワンストップサービスに、そこに行けば必要な物を揃えることができる場所に。
- 農家の野菜などを販売できるような機能が拠点にあってほしい。
- エーガイヤのショートステイ施設を改良して下宿として使用できないか。
- 道の駅をエーガイヤに移してはどうか。
- 主要道から見えやすいエーガイヤを観光拠点としてはどうか。
- 駐車場が狭いと子どもの乗り降りに気を使うので、広いスペースがほしい。
- 子どもがお茶を飲んだり、お菓子を食べたりできる休憩スペースがあればいいと思う。
- 親同士が助けあったり、教えあったりできる場所があればよい。
- 拠点として、交通の要衝として機能するようにはしないとイケないと思う。
- 拠点施設にはバスターミナルが必要となる。
- 国道 429 号から市民局への進入路に段差があるが、利用しやすいように改善が必要。
- 集いの場所ということだけではなく、市民が必ず訪れる場所づくりをしてほしい。
- 身近な住民窓口機能が市民局とエーガイヤのどちらの拠点にも必要ではないか。
- 確定申告のときなど、必要となる証明書等を 1ヶ所で揃えることができる体制に。
- 庁舎として確実な避難所機能を備える必要がある。宿泊や炊出しの機能も重要。
- 木造の建物は強度の問題など、防災上どうかと思う。木造にこだわらず、狭い敷地を有効活用できる高層建築も検討されたい。
- 今後の人口減少を考えて、維持管理費コストが少ないコンパクトな施設としてもらいたい。

拠点に  
集う

生活や文化・芸術、地域活動など  
すべて集うことから始めよう  
-みんなで進める地域の基地づくり-

## VI 取組のスケジュール

今後の「千種生活圏の拠点づくり」に向けては、以下のようなスケジュールを想定して取組を進めます。

| 取組内容       |                         | 平成 30 年度 | 平成 31 年度 | 平成 32 年度 | 平成 33 年度 |
|------------|-------------------------|----------|----------|----------|----------|
| 取組推進と体制づくり | 本計画の周知と意見交換（タウンミーティング等） | ■→       |          |          |          |
|            | 拠点づくり推進の体制づくりに向けた協議     | ■→       |          |          |          |
|            | 拠点づくりの取組と拠点施設の活用に向けた協議  |          | ■→       |          |          |
|            | 拠点づくりの取組推進              |          | ■→       | ■→       | ■→       |
| 拠点施設の整備    | 設計事業者の公募・選定             | ■→       |          |          |          |
|            | 基本計画・基本設計・実施設計          |          | ■→       |          |          |
|            | 工事事業者の公募・選定             |          |          | ■→       |          |
|            | 既存施設の解体・建設工事            |          |          | ■→       |          |
|            | 竣工・供用開始                 |          |          |          | ■→       |